

第7回環境教育・環境学習ネットワーク会議 議事録

日 時：平成24年3月14日（水） 15:00～17:00

場 所：1号館3階会議室A

出席委員：高橋会長、鈴木副会長、稲委員、宇佐美委員、内船委員、高橋（直）委員、
高橋（正）委員、橘委員、奈良谷委員、野崎委員、原口委員（11名）

事務局：本多環境政策部長

環境政策部環境企画課（川村主査、太田主任、西形、高橋）

環境政策部環境企画課自然環境担当（大森課長、今井主任、角尾）

傍聴：なし

◆ 会議の流れ

1 開会

2 議題

（1）アンケート結果の報告について

- ・今後の会議の議題を決めるにあたって委員に行ったアンケート結果の報告

（2）会議議事進行方法について

- ・グループ討議の導入について

3 その他

◆ 議題の要旨

（1）アンケート結果報告（事務局から説明）

- ・今後の会議の議題を決めるにあたって委員に行ったアンケート結果の報告

[アンケート項目]

1. 環境教育の現状について

- ①行政に求めること
- ②人材育成について
- ③環境教育指導者派遣事業・パネル展示について
- ④ネットワーク会議議事進行方法について
- ⑤よこすかECO通信について
- ⑥横須賀ECO大賞について
- ⑦よこすか環境フォーラムについて
- ⑧こどもエコクラブ

2. 今後の取組について

- ①シンボル事業について
- ②トライアル事業について
- ③中学生、高校生、大学生、社会人への拡大について

[質疑応答]

(野崎委員) アンケートはネットワーク会議委員全員に送付したと思うが、回答率はどうだったのか。

(事務局) 全員から回答を頂いた。

(鈴木副会長) アンケート6番の横須賀ECO大賞が隔年となったのは、どういった状況からか。例えば、ある特定の団体がかたまっているということがあったのか。候補者は学校以外だと、いつも特定の団体になるというのが現状ではないか。

(事務局) 受賞資格を「市内で継続的な活動を行っている団体」としている。新規の団体は受賞しにくくなっている。審査の段階で良い活動だが、活動年数が浅いというので大賞にならないものもあった。

ECO対象を続けていくとすると、市内のキャパシティも一定であるため、毎年活動が増えるわけではない。地道に活動もすくいあげるべきではないかという意見も頂いた。来年度から表彰は隔年となる。そのため、来年度は考え直しの年度としたいので、そのあたりも考えていきたい。

(高橋会長) 横須賀景観賞も隔年で行っている。おそらく表彰を毎年にする、対象数の問題が出てくるのだろう。

(野崎委員) ECO大賞は行政が推薦するのではなく、応募の形をとっている。今年の実募団体の数を考えると、このECO大賞のシステム自体が市民活動団体に知られていないのではないか。

(事務局) 今年の実募は9団体だった。

(鈴木副会長) 市民活動団体の数は把握しているのか。

(事務局) 全数は把握していない。わかる範囲で応募パンフレットは送付した。野崎委員が言われる通り、すべてに行き渡ってないのかと思う。

(高橋会長) 先日あった自然環境担当が主催の交流会では、どのくらいの団体が集まったのか。

(今井主任) 19 団体から賛同を得て、当日は 13 団体が出席した。

(高橋会長) 自然環境に限らず環境関係団体ならその倍くらいあるかと思う。

(野崎委員) 鈴木委員の発言で同じようなところが、と聞いたが、一度受賞した団体は続けてもらうことはできないと思っている。同じ団体が続けてとることにはならないと思うが。

(事務局) 大賞受賞者は再度の応募はできないが、他の部門であれば大賞を狙って再度の応募は可能。ただ、受賞のためには活動をグレードアップさせることが必要である。

(高橋会長) 学校の応募は何校あったか。

(事務局) 委員の先生の学校 2 つである。

(高橋正明委員) 条件として継続的環境保全活動を行っているという話だが、今の話では自然環境というイメージが出てくる。もう少し幅を広げたら応募が増えるのではないか。

(事務局) 自然環境だけでなく温暖化、リサイクル等も対象だが、応募は自然環境系が多く偏りがあるので、周知は必要だと思う。

(高橋会長) 逆に環境活動というだけで、他に細かい制約はないという理解でいいのか。

(事務局) 制約はない。ただし、クリーンよこすか運動もあるため、単なる美化活動とは区別している。自然系の応募が多いが、今年の特別賞は幼稚園の省エネの取組となっている。応募ではリサイクルや温暖化の取組も毎年あがってきている。

(高橋会長) この結果を踏まえてどうするかは、次のステップ、今後の取組になって出てく

るのか。

(事務局) 周知、応募方法等について、来年度考えていきたい。

(2) 会議議事進行方法について (事務局から説明)

ネットワーク会議の場が、委員の方の意見を十分に引き出せる場となっていないのではないかという意見が事務局内にあり、また限られた時間の中で複数のテーマについて、委員の方から多くの意見をいただくことが難しい現状があった。

今後の事業について、人材育成やシンボル事業の実施をするためには、イメージや方向性を共有することが重要になる。そのためにネットワーク会議の中でも多くの発言をいただきたいと思い、グループ討議の導入を考えた。

提案としては、会議の中で毎回でなく、一部にグループ討議の時間を設けることを考えている。今回は、まず必要性の可否をご討議いただきたい。必要という結果であれば、方法についてもご意見を頂きたい。

[質疑応答]

(高橋会長) このネットワーク会議の目的が、情報交換だけでなく、これからは、シンボル事業や環境教育の計画の場として、もう少し具体的な意見を吸い上げていきたいので、グループ討議の導入を考えたいということでの議題。みなさんの忌憚のない意見を伺いたい。

(鈴木副会長) もしそれができるとすると、部屋は別になるのか。議事録や傍聴もあるので、同じ部屋だろうか。同じ部屋で議論というのも少しうるさい気はするが。

(事務局) 議事録はグループ討議の中では必要ない。市の法規担当課に確認済み。分科会やプロジェクトチームという方法もある。

(高橋正明委員) 今の趣旨であれば、プロジェクトチームでブレインストーミングした方がフランクな意見や建設的な意見が出るだろう。結果を公に残せばよいと思う。大事なのはテーマ設定なので、そこをしっかりとすれば有効な方法だと思う。

(内船委員) グループ討議には賛成。何を話したらいいか明確にして、それなりに時間を与えられればよいと思う。

(高橋会長) この全体でもあまり人数が多くないので、あまり細かく分けると3人くらいになってしまうのではないかと。

(原口委員) グループ討議は賛成。人数は議題によって決めてはどうだろうか。例えば、シンボル事業のように多くのアイデアが欲しいときは、3～4人くらいの小さなグループでたくさんの意見を出す。

(高橋会長) 人数の提案があったが、メンバーについてはどうか。学校の先生が集まった方がいいか、いろいろな立場の方が集まった方がいいか。

(橘委員) (学校、企業、市民団体など) 色々な立場の方と意見交換ができればいいと思う。人数は6人くらいでも可能だと思う。

(奈良谷委員) グループ討議には賛成だが、グループ間の進捗の差が出るのが気になる。

(高橋会長) グループ討議には賛成の方向でありが、そのときの提案等あるか

(宇佐美委員) グループ討議はやる機会が多く、イメージが明確にあるので特に問題は感じていない。司会進行は、教員出身はなれているが、持ち回りでやるのか、明確なビジョンをもって環境企画課がやるのか、その点の方向も出してもらえるといいかと思う。

(高橋会長) グループのメンバーは毎回固定とするか、もしくはテーマごとにグループをつくるのか。

(橘委員) 毎回必ずグループ討議にはしない方がいいと思う。意見がたくさん欲しいとき、一つの方針が欲しいときなど、議題や会議の狙いによって形は変えていいと思う。

(事務局) メンバー構成は、面倒でなければテーマごとにメンバーをかえるのもいい。

(高橋会長) グループ討議を導入するとしたら新年度からか。

(事務局) 新年度の第8回から取り入れられたらと思う。

(高橋会長) 会場はどのような形になるのか。

(事務局) 今より少し大きい部屋を使うなど考えたい。会場を移動ということは考えていない。

(鈴木副会長) 第8回のテーマは決まっているのか。

(事務局) アンケートの項目から考えると、ECO大賞について来年度は見直しの年なので、たくさん意見をもらえたらと思う。そのほかに、よこすか環境フォーラムも見直しを考えているし、シンボル事業も大事なのだが、色々な意見が出たという点でエコクラブの活用についてもテーマとしたい。また、委員の方々でより重要なテーマがある場合は、それを優先したい。

(鈴木副会長) グループ討議には事務局も入ってもらった方がいい。解らない部分を補ってもらいたい。

(高橋正明委員) メンバー構成だが、ネットワーク会議の委員はおおまかに5つの主体があるので、グループ討議のメンバー構成はそれぞれ出れば、人数的にもメンバー的のも多様な意見が出ると思う。

あと、気になっているテーマだが、子どもたちへの環境教育をどうすれば効果的に進められるかが大事だと思う。子どもに環境の大切さを理解してもらうというのは、遠いようで近道ではないか。こどもエコクラブも一端だが、どういったものが効果的なのかどうか、といったことを議論してはどうかと思う。

(高橋直人委員) 釜石市の防災教育は、小・中学生の教育から大人へと波及させた。環境教育もそうあってもいいのかもしれない。

(野崎委員) 学校ということで今は小学校から来て頂いているが、会議として中学校はどういうふうに考えていくのか？また、幼児の環境教育はどうするのか？幼児への教育は子どもへの根底に働きかけることができるので、非常に大切と考える。そういったことも考えていく必要があるのではないか。

(高橋会長) 会議の進行方法については、グループ討議を進めていくということで結論とし

ていいだろうか。具体的にはもう少し検討を進めていく必要がある。今、それに加えて議題にかかわる意見も出てきたので、それはこれからグループ討議でも取り上げていけばいいか。

(事務局) 次回以降は、グループ討議を使って進めさせていただこうと思う。毎回ではなく、テーマによってグループ討議を活用したいと思う。高橋正明委員、野崎委員からは討議のテーマを出して頂いたが、どれがグループ討議にふさわしいテーマなのかを議論するのが次のステップかと思う。事務局側からのお願いとしては、市の見直し事業を1つは入れていただきたい。話し合いの方法は、1つのテーマを継続して話し合うことも考えられるし、ブレインストーミングなどを行ってそのテーマは1回限りというやり方も考えられる。そういったやり方は、ここで委員の皆様と考えて頂いた方がいいか、事務局である程度形を示したほうがいいか。

(高橋会長) ある程度事務局で形を出してほしい。この後の報告が終わった後に時間があれば、その点を話し合ってもいいと思う。

(3) その他

・身近な生きものアンケート調査について (自然環境担当 今井主任)

子どもたちの生きものへの関心を知るため、また今後のアンケートの質問内容を検討するため試行として実施。津久井小学校の橋先生のクラスにご協力いただき、平成23年12月に実施した。回答から、多くの子どもたちが川や山を中心に生きものにふれあっている。自由記述については全体で200種近くの回答があり、身近な場所で興味を持って生き物に触れていることが伺える結果となった。

(高橋正明委員) 感じたことなのだが、アンケート結果をみると津久井小の周りは自然が多く残っているように思われる。周囲の環境と回答の関連性をみるのが大切ではないか。逆に都市化された地域の学校との結果比較をしたらいいのではないか。

(大森自然環境担当課長) 広範囲なエリアでの実施ができれば、今の意見を配慮したい。

(内船委員) 熱心な回答結果が得られているが、実際に先生がどのくらい子どもたちの回答にフォローをしたのか。

(橘委員) 授業でない時間で 10 分くらい時間をとった。回答は個人で行った。10 分では書き終わらない子が多かったので、帰りまでに出すようにした。内容をみると、クラスは 5 年生から 6 年生で、地域の環境について学習していたので、学習の中で見つけたもの多く出てきている。学習をしていなかったら出てきていないと思う。学習の中で見つけたものを調べる習慣がついている子どもたちなので、回答もたくさん出たのだと思う。また、学習で川に行ったが、遊びで川に行っている子どもは多くない。

昆虫が分かっていないというのは少しショックだ。

(原口委員) 橘先生のクラスでは、子どもたちが地域の自然にふれる機会がたくさんあり、興味を持って取り組んでいたもので、これだけの結果に出た。とすると、子どもたちの興味は、地域での自然も少なくなってきたこともあり、学校での取り組みが与える影響はあるのかなと思う。したがって、子どもたちにアンケートをする際、先生方にも環境の取組をしているのかどうかアンケートをした方がいい。学校の取組と結果のいろんな関連性が見えてくるだろう。

(高橋会長) アンケートをする以上、そこから何を導き出したいのかということで、アンケートの質問を考えなければいけない。そうすると、このアンケートではまん中の写真が非常に大切だと思う。調査票を見たときに、このアンケートが何をやりたいのか明確にするためには、私からするとこの写真の構成でいいのだろうか？横須賀市で実施しているのであれば、市の花ハマユウなどを入れた方がいいのではないかな。

(内船委員) 写真の選定にかかわった立場からフォローをさせてもらおうと、アンケートの実施が 9 月以降、ということだったので、ハマユウやモンキアゲハなどの地域的なものがはずされた。来年度以降、早いシーズンにやるということであれば、もう少しいい選択ができると思う。

(鈴木副会長) この学校の子どもたちは、海へ行って釣りなどしないのだろうか。あるいは、山へ行ってジネンジョやアケビをとるようなこともないのだろうか。「食べる」ことにつながる回答がない。時代の差が出ている。

(橘委員) 海で泳ぐことは禁止されている。

(野崎委員) 横須賀市全体の小学校にアンケートということであるので、何を目的としたも

のか、考えた上で設問を出す必要がある。ある小学校の6年生が「自然環境についてどれだけ知識を持っているか」を調べるだけではもったいない。市街地の小学校でも、自然の豊かな小学校でも、子どもが判断できるように、写真を選ぶべき。また、季節についても、広い範囲で、いつ行かうかわからないということならば、年間を通じた生きものの写真が必要。アンケートを行うことで地域の自然度をある程度知る素材にもなると思う。その活かし方も念頭に置いて、アンケートを作成した方がいい。また、これは自然だけだが、これにあわせて環境の他の分野のアンケートも一緒にとったらおもしろいのではないかと思う。

(大森自然環境担当課長) 今回は割り切ってやれる時期に行ったため、12月となった。手法のサンプリングという意味も兼ねて行った。今後やる場合にはまたご協力をお願いしたい。

(野崎委員) アンケート用紙の文章は小学校6年生の子どもに適したものなのかどうか。対象学年を念頭に入れて文章をつくった方がよい。

(奈良谷委員) 細かいことかもしれないが、写真について、スケール感が分かりにくい。工夫した方がいいかなと思う。

(橘委員) 教師がフォローしたのは、「『身近な場所』ってどこですか」という質問。一応今回は学校区で切り分けた。子どもたちは、「9月以降」ということで悩んでいた。季節ごとの区切りは難しい。年間を通して見たものなら覚えているが、時期までは覚えていない。

(高橋会長) 実施するとしたら6年生か。6年生でするとしたら1クラスだけか、それとも全クラスで行うのか。

(大森自然環境担当課長) 今できるとすれば地域を広くとってみたいので、1つの学校では1クラスを考えている。学校側の協力も得ないといけないので、先生方の意見を優先したい。

(角尾職員) 出された意見はこちらでも悩んでいたところばかり。「9月以降」としたのは、「1年間」とすると、どこで見たのか曖昧になってしまうかと考えて期間を区切った。夏休みを入れるとさらに曖昧になってしまうので9月以降としたが、みられる物を考えないといけない。今後もたくさん意見を頂きたい。

(稲委員) 小学校の場合、学校と地域が密接。学校のある地域が子どもたちにとっては1番

身近。学校でも地域の身近な環境でしか活動ができない。津久井小のように学校の周囲に自然があり、さらにそこで学習を行ったので素晴らしい結果が出たと考えられる。今ここで9月以降ということがあったが、学校ならではの自然環境を子どもたちからすいあげるということならば、1年間をとおしての動植物のアンケートの方が、マップなどを作るという点からもいいと思う。現場の先生からすると、自分たちの地域の自然すらわからない人もたくさんいるので、アンケート結果から地域のマップができることで、環境教育をやろうという気にもなってくるし、前向きになって先生方も取り組んでくれると思う。このアンケートがそういう役割も果たしてくれるといい。

(内船委員) 博物館では写真提供を行ったが、たくさんの回答があり、結果には学芸員も非常に驚いた。結果的には設問6の集計が1番おもしろかった。当初は設問5のビンゴ形式の回答に期待を持っていたのだが、ふたを開けてみると設問6の自由回答が非常に面白かった。ここから引き出せることがたくさんあった。この(設問6の集計)表を見て初めて気づくことがわかった。津久井小周辺の環境がよくわかる一方、昆虫とは何かがよくわかっていないということもわかった。小学生に対する教育を考えるいい資料になった。地域の環境、地域の教育のそれぞれを知る上でいい資料になった。答えが引き出したのは、先生の指導ももちろんだが、設問5の具体的な写真が設問6の回答へいい刺激になったと思う。そういう意味でこれらの設問(設問5, 6)のこの設定は功を奏しているのではないだろうか。結果公表や地域の学習への反映や利用については、どう使う予定か?博物館でもこういった内容は強く興味があって、フォーラムでの発表をしていただきたい、研究報告に結果を載せて頂きたいと思うが、どうだろうか。

(今井主任) 今回は平成24年度アンケート実施のサンプルとして行った。そのため、どういった設問がいいかとかの具合をみるために行った。結果の活用は、具体的なものはないが、ご協力いただいた方にご相談しながら結果を公表できればと思う。

(高橋会長) グループ討議のテーマにもなりうる。

(大森自然環境担当課長) データの活用は今の段階では考えていなかった。やってみた結果でこういった観点もあるね、と発見したところもある。それをふまえてアンケート調査をリニューアルする。いろんな角度から見て違って見える部分があると思う。生データを出すつもりはない。みなさんに相談をして、こういう使い方がいいのではという意見やアイディアを頂けるといいと思う。その節はよろしくお願ひしたい。

(高橋会長) 事務局から資料について、他に説明がありますか。

(事務局)

- ・ よこすかE C O通信第4号の説明
- ・ 環境教育指導者派遣事業平成23年度事例集の説明

(高橋会長) 審議、報告事項は終わりましたが、事務局から他に何か連絡ありますか。

(事務局) 次回会議は5～6月で行う予定。予定調整については4月に皆様にご連絡させていただきます。

(高橋会長) それでは他に特になければ、これで第7回環境教育・環境学習ネットワーク会議を終了します。